

2011年度公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会

九州構想アクションプラン 2011年度活動報告書

**Kyushu
Concept
Action
Plan
2010**

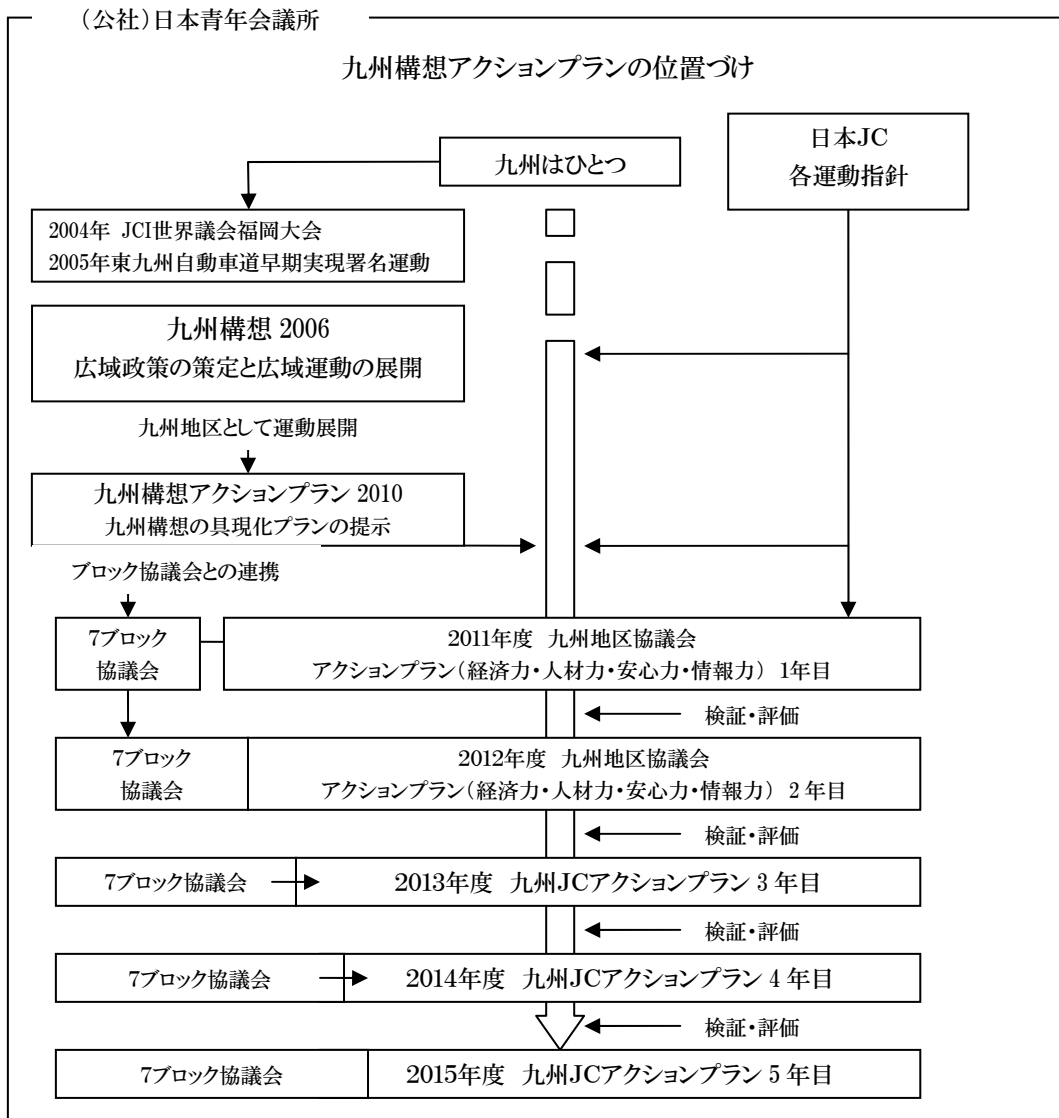


〈目 次〉

1. はじめに	2 頁
2. 検証・評価の概要	3 頁
(1)検証・評価の対象及び方法について	
(2)九州構想アクションプラン 2010 の一部改訂(自立した人材力)について	
3. 2011年度の取り組みに対する検証	
(1)自立した経済力	7 頁
九州ツーリズム確立プラン	
九州ブランド確立プラン	
(2)自立した安心力	9 頁
九州環境モデル構築プラン	
九州地域防災確立プラン	
(3)自立した人材力	11 頁
ナショナル・アイデンティティ確立プラン	
九州JAYCEEスピリッツ醸成プラン	
4. 九州地区7ブロック協議会の取り組みについて	13 頁
福岡ブロック協議会	14 頁
佐賀ブロック協議会	15 頁
長崎ブロック協議会	16 頁
熊本ブロック協議会	17 頁
大分ブロック協議会	18 頁
宮崎ブロック協議会	19 頁
鹿児島ブロック協議会	20 頁
5. 九州構想戦略会議としての総括	21 頁

はじめに

九州地区協議会では、2006年に「九州はひとつ」の理念のもと策定された「九州構想(Heart of East Asia ~地域間競争の時代を生き抜いていくために、財政基盤や社会資本整備など自立性の向上に加え、個性ある地域文化や豊かな自然・地域資源を見直しつつ、東アジアへの地理的ポテンシャルを活かし、アジアの人々に尊敬され、アジアの人々が集い、心の豊かさを実感できる自立した九州を実現する。）」の具現化に向けた中期計画として2010年10月に「九州構想アクションプラン2010」を策定しました。この計画は、九州JA YCEEが、これからの九州づくりを進める指針として策定されたものであります。



この九州構想アクションプラン 2010 の目標達成に向けて大切なことは、①2015年の九州の将来像やその方向性を地区協議会・ブロック協議会、そして各地会員会議所のメンバーと共有するとともに、②概ね5年間という短期間で、各施策の目標に向かって、地区協議会とブロック協議会の委員会が共通認識の下で一体的な取り組みを行うこと、③目標達成状況を常に意識した検証を行い、具体的な事業内容については、柔軟に改善を加えていくことであります。

2. 検証・評価の概要

(1) 検証・評価の対象及び方法について

当会議では、2011年度の各委員会事業が、九州構想アクションプラン2010(4つの戦略主題と12のアクションプラン)のどの項目に関連するか、またシステムの構築と住民意識の醸成にいかにかに寄与できたか、九州JCメンバーはもとより、九州に住む市民とビジョンを共有できたかどうかという点に重点を置き、各委員会の事業検証をもとに、九州構想の実現に向けた客観的見地より検証を行いました。

◆自立した経済力		
戦略主題	基幹産業の育成	
目的	観光先進地九州の創造	
	農業先進地九州の創造	
アクションプラン		2011年度九州地区協議会 担当委員会
経済AP①	九州ツーリズムの実現	九州ツーリズム確立委員会
経済AP②	食料供給基地の実現	九州ブランド確立委員会
経済AP③	九州版ローカルファーストの実現	

◆自立した人材力		
戦略主題	真の九州人の育成	
目的	九州を一つとして考えることの出来る人材の育成	
	九州の文化を継承出来る人材の育成	
アクションプラン		2011年度九州地区協議会 担当委員会
人材AP①	将来の九州を支える人材の輩出	九州JAYCEEスピリッツ醸成委員会
人材AP②	旧き良き伝統を百年後に残す意識を持った人材の育成	
人材AP③	感謝の心を持てる人材の育成	

◆自立した情報力		
戦略主題	九州独自の情報網の確立	
目的	九州主体の情報蓄積	
	九州からの能動的情報発信	
アクションプラン		2011年度九州地区協議会 担当委員会
情報AP①	九州主体の情報蓄積	
情報AP②	日本及びアジアに向けての情報発信	
情報AP③	外部団体と連携した九州の魅力を発信	

◆自立した安心力		
戦略主題	安心・安全なまちの実現	
目的	安全対策先進地域「九州」	
	環境対策先進地域「九州」	
アクションプラン		2011年度九州地区協議会 担当委員会
安心AP①	世界一治安の良い島「九州」	
安心AP②	九州防災ネットワークの確立	九州地域防災確立委員会
安心AP③	環境先進地「九州」の実現	九州環境モデル構築委員会

(2)九州構想アクションプラン2010の一部改訂(自立した人材力)について

自立した人材力においては、戦略主題に掲げる「真の九州人の育成」の必要な要素として、九州を一つとして考えることの出来る人材の育成や九州の文化を継承出来る人材の育成を目的としてアクションプランが策定されました。

しかし、アジアの他国と近接している私たちの住む九州は国境離島を擁しており、アジアの国々と共に、私たちはこれらの問題の解決に向け、国益を見据え国民国家の尊厳を主張しつつ、相互理解を深め、国際社会において主導的役割を果たしていく確かな国家観を持った人材の育成、さらに、アジアの核を謳う九州こそ、アジアを始め世界に目を向けて、率先した貢献や相互理解を意識して民間外交に注力し、広く豊かな国際感覚と新たなことへ積極果敢に挑む力強い精神を併せ持った九州人の育成が必要であるとの2つの観点も取り入れ、以下の通り人材アクションプランを一部改訂します。

◆自立した人材力		
戦略主題	真の九州人の育成	
目的	確かな国家観を持った人材の育成 ◇[2011年項目追加]	
	世界平和に貢献できる国際感覚溢れる人材の育成 ◇[2011年項目追加]	
	九州を一つとして考えることの出来る人材の育成	
	九州の文化を継承出来る人材の育成	
アクションプラン		2011年度九州地区協議会 担当委員会
人材AP①	国体保全に関する意識の醸成 ◇[2011年項目追加]	ナショナル・アイデンティティ確立委員会
人材AP②	アジアの一員としての国際感覚を備える人材の育成 ◇[2011年項目追加]	九州JAYCEEスピリッツ醸成委員会
人材AP③	将来の九州を支える人材の輩出	
人材AP④	旧き良き伝統を百年後に残す意識を持った人材の育成	
人材AP⑤	感謝の心を持てる人材の育成	

九州構想実行5ヶ年計画

[2011年項目追加]

概 念	自立した人材力
戦 略 主 題	真の九州人の育成
目 的	確かな国家観を持った人材の育成
目 標	国体保全に関する意識の醸成
5年間で達成する段階	九州における国土保全に関する意識の醸成

背景

我々の住む九州はアジア諸国と近接しており、経済的・文化的な交流を持っています。これらの交流の中、相互理解を深めながらアジアの中で主導的役割を果たしていかなければなりません。しかし領土・領海等を脅かされる問題も頻発に起き、主権を脅かす他の問題も存在しています。そのような中、日本を護り、創っていくために日本国民としてこの国の問題は、全て自らの問題であるという意識を持つ必要があります。この国の未来や国益を考え、アジア諸国との玄関口である九州に住む私たちが、日本という国に誇りを持ち、日本人であるという意識を持たなければなりません。

具体的目標

九州に住む人々が、日本の主権を脅かす問題を自分のことと捉え、日本人としてこの国を守り、日本・九州・自分の住む地域は自分たちで創ることが出来る、そして創っていかなければならない意識を持っていただき、国益を見据え、確かな国家観を持った人材となっただけことを目的とします。

システムの構築	住民の意識醸成
<p>国体保全に関して日本JCや他団体との連携や意見交換を実施する中でJCとしての国家観を確立し、九州各ブロックとともに一体的な継続性のある運動にしていきます。</p>	<p>市民やJCメンバーに対して、九州における国体保全に関する確かな見識を養うことを目的としたプログラムを実施し、確かな国家観を醸成していきます。</p>

具体的活動

九州における国体保全に関するフォーラムの開催及び情報発信

[選定理由]アジアの他国と近接している私たちの住む九州は国境離島を擁しており、多くの交流を持つと同時に様々な問題を抱えています。フォーラムや意見交換会を通じて、国境離島問題を含めた国体保全の必要性を正しく認識し、国民一人ひとりが確かな国家観をもつことが、諸問題の平和的解決の道筋となり、国益に繋がってくるものと思われれます。

実行5ヶ年計画

5年間で達成する段階		5年間の実行計画					
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
九州における国土保全に関する意識の醸成	システムの構築	日本JCとの連携	国会「主権国家確立委員会」との連携	国体保全に関するプログラムの実施	左記継続とJC国家観の探求	左記継続	JCとしての国家観の確立
		7ブロックとの協働	憲法議論の推進	国境離島を保全し国益に与する、九州の魂の研究	左記継続とJC国家観の探求	左記継続	JCとしての国家観の確立
	意識醸成	国益に繋がる確かな国家観の醸成	国境離島・ナショナルアイデンティティ確立フォーラム開催	国土保全に関するフォーラムの開催及び情報発信	左記継続	左記継続	国土保全に関するフォーラムとJCとしての国家観の発信

九州構想実行5ヶ年計画

[2011年項目追加]

概 念	自立した人材力
戦 略 主 題	真の九州人の育成
目 的	世界平和に貢献できる国際感覚溢れる人材の育成
目 標	アジアの一員としての国際感覚を備える人材の育成
5年間で達成する段階	九州における国土保全に関する意識の醸成

背 景

近年、躍進するアジアのさらなる安定成長や安定平和へ向けて、国家間の連携の強化が叫ばれています。しかし、それぞれの歴史や文化の違いは、連携に必要な共有の価値観を希求するうえで大きな壁です。その中で、種々の枠組みを超えた民間外交に取り組むことは、大きな意味と可能性を担っています。

具体的目標

同アジアの一員として取り組むべき協力や貢献について考え実践することで、世界の安定平和実現に向けた見識を深めます。さらに、過去の人材育成プログラムについても積極的に活用し、その効果向上への一助とします。

システムの構築	住民の意識醸成
<p>アジアの一員として取り組むべき協力や貢献について考え実践できるプログラムを策定し、研修事業を継続しながらプログラムを維持成長させ、世界の安定平和実現に貢献できる人材を育成できるシステムを構築します。</p>	<p>アジア、そして世界の一員であるという認識を深め、国際貢献や世界平和に対する意識を醸成します。</p>

具体的活動

異文化交流を通して豊かな国際感覚をもつ人材の育成及び国際貢献プログラムの実施

[選定理由]アジアの核を謳う九州こそ、アジアを始め世界に目を向けて、率先した貢献や相互理解を意識して民間外交に注力しなければなりません。そのためには、九州GTSをアジアにて開催して他国の歴史や現状を学び、そこに暮らす人との異文化交流を通して相互理解を深め、九州JAYCEEを始めとする九州の青年自らが「アジア、そして世界の一員」であることを認識することで、広く世界を考えることの出来る国際感覚を醸成することが必要と考え選定いたしました。

実行5ヶ年計画

5年間で達成する段階		5年間の実行計画					
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
九州における国土保全に関する意識の醸成	システムの構築	豊かな国際感覚を備える人材育成プログラムの達成	九州グローバルトレーニングスクール(GTS)の開催	九州GTSの開催、国際交流による人材育成プログラムの実施	左記継続	左記継続	左記継続及び検証・提言
	システムの構築	国際貢献プログラムの実施及び継続	マラリア撲滅のための募金自動販売機の設置推進	国際貢献プログラムの実施	左記継続	左記継続	左記継続及び検証・提言
	意識醸成	プログラムの発信による市民の意識醸成	地区大会フォーラムにて実施プログラムの情報発信	フォーラム・HPなどによる情報発信	左記継続	左記継続	左記継続及び検証・提言

3. 2011年度の取り組みに対する検証

(1) 自立した経済力 九州ツーリズム確立プラン

自立した経済力確立グループ 九州ツーリズム確立委員会		
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 九州経済の活性化に向けた地域性溢れるニューツーリズムの策定 交通インフラ整備に繋がる市民参加型フォーラムの開催 	
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> 九州地区大会(大分市)にて「九州ツーリズムフォーラム」を開催 (第一部 プレゼンテーション「地域の誇りを発信しよう！私のまちのツーリズム」) (第二部 対談「地域の誇りを世界に向けて ～ゲームで語る地域の魅力～」) 	
アクションプラン2010に基づく事業の検証 (九州ツーリズムの実現)	戦略的な広報及び観光ルートの確立	<p>「九州ツーリズムフォーラム」では第一部にて九州運輸局観光企画部より講師をお迎えし、九州観光における現状の詳細なデータに基づく情報発信が実施されております。発信内容については、観光による経済効果・九州における国内外からの宿泊者数・地域公共交通の事例・旅行者ニーズの変化など多岐にわたり、フォーラムにて情報を発信すると同時に九州観光における現状調査も行われており、左記システムの構築への次のステップに繋がる事業が実施できたと考察いたします。</p>
	交通インフラビジョンの確立	
	九州の観光を一体と 考え九州ブランド化 に対する意識の醸成	<p>「九州ツーリズムフォーラム」開催及び、九州7ブロックを通じた77L0Mへの観光に関するアンケート調査も行っており、市民やメンバーに対して左記意識の醸成に寄与できたと考察いたします。</p>
2012年度以降への提言	<p>本年度については実行5カ年計画1年目ということもあり、情報発信と九州観光に関する現状調査が効率よく実施されております。2012年度以降からは、その調査結果をもとにビジョンの共有やプランの策定作業に着手することになりますので、本年度の調査結果をブロックと共有し連携強化を行いながら実行5カ年計画を遂行することを提言いたします。</p>	

(1) 自立した経済力 九州ブランド確立プラン

自立した経済力確立グループ 九州ブランド確立委員会	
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)九州経済連合会や農商工業と連携を図った九州ブランドの確立 ・九州ブランドの国内外発信による地域経済活性化 ・「地域活性九州たから市」の開催 ・本会『「地域の誇り」復活推進会議』との連携
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地区大会(大分市)にて「地域活性九州たから市」を開催 ・JCI ASPACマニラ大会にブース出展 ・全国大会(名古屋市)にて「地域活性たから市」を開催
アクションプラン2010に基づく事業の検証 (食料供給基地の実現)	<p>九州の食品の現状調査及び競争力の分析について</p> <p>現状調査においては「地域活性九州たから市」の出展者の募集と選考を行う中で、九州各地のブランドの再認識がされており、また競争力の分析においても、出展者の売上から競争力が比較できるため、どのような物が今後九州を代表するブランドになり得るか検証することが可能になっております。各ブロックと連携し、ブランドの発掘・発信を行い、情報の蓄積がなされており、市場における九州の競争力の強化に繋がるものと考察します。</p>
	<p>新規市場の開拓について</p> <p>ASPACマニラ大会や全国大会にブースを出展し焼酎の試飲会をおこない、九州の食品の新規市場における可能性の探求がなされています。実行計画1年目ということもあり出展品数が少なかったため、今後このような事業を実施する場合はブロックとの連携を強化し、各県から1品目以上出展したうえで九州全体をアピールすることが必要だと考えます。</p>
	<p>九州ブランド化に対する意識の醸成について</p> <p>「地域活性九州たから市」の出展者においては、福岡や開催地である大分に偏りがちですが、各ブロックとの連携のうえ各県から均一に募集・選考できたため、来場者に対して九州全域のブランドに関するイベントだと認識していただけたと推測され、ビジョンの共有、意識醸成に寄与できたと考察いたします。</p>
2012年度以降への提言	<p>2011年度「地域活性九州たから市」などのイベント開催については、2012年度以降も事業を継続し調査研究したうえで、フォーラムなどを通してメンバーや市民に向けて情報を発信することで、目標である「食料供給基地の実現」に近づくことへの第一歩となり得ると思えます。「たから市」のような事業のみでは、九州における基幹産業である第一次産業(農林水産)についての調査研究が限られてくるため、2012年度以降は同産業についての調査研究も平行して行うことを提言します。</p>

(2) 自立した安心力 九州環境モデル確立プラン

自立した安心力確立委員会 九州環境モデル構築委員会	
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 九州各地の環境問題の状況を調査・研究し、企業益を達成できる持続可能な環境モデルの研究・発信 九州の環境ビジネスを発掘し、意識向上を行う為の褒賞事業 九州から発信する地域益と企業益を両立する為の評価・検証
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> 九州地区大会(大分市)にて「九州環境フォーラム」を開催
アクションプラン2010に基づく事業の検証 (環境先進地「九州」の実現)	<p>JCの利点を生かした広域的環境保全のシステムの提案</p> <p>フォーラムでは講師による福島第一原発事故による放射能汚染問題を広域的に捉え、九州における同問題の広域的環境保全システムに対しての問題提起がなされております。アクションプラン2010の実行5ヵ年計画とは趣旨が異なりますが、このような大災害の発生により時勢の変化に対応できた事業が実施されたと考察いたします。また著名な講師を選定したことにより、多くの市民やメンバーに環境問題に対する情報発信ができ、今後の同問題に関するビジョンの共有、意識の醸成に寄与できるものと考察いたします。</p>
	<p>地域に則った環境事業の構築及び地域への提案</p>
2012年度以降への提言	<p>東日本大震災による福島第一原発の事故が発生し、放射能汚染・代替エネルギー問題に関する国民の関心が高まっております。アクションプラン2010の実行5ヵ年計画に沿わないかたちにはなりますが、時勢にあった事業を行うことが重要だと考えられますので、2012年度以降についてはアクションプランの改定を行うこと提言いたします。</p>

(2)自立した安心力 九州地域防災確立プラン

自立した安心力確立グループ 九州地域防災確立委員会	
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災システムの研究及び発信 ・企業防災による減災の仕組みの研究及び発信 ・本会「地域防災確立委員会」及び他団体との連携による支援体制の強化 ・災害支援プログラムの構築 ・防災力向上セミナーの開催
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災への支援活動 ・九州で発生した災害事例の調査検証 ・九州地区大会(大分市)での地域防災フォーラムの開催
アクションプラン2010に基づく事業の検証 (九州防災ネットワークの確立)	<p>域的環境保全のシステム提案</p> <p>JCの利点を活かした広域的環境保全のシステム提案</p> <p>東日本大震災において本会やブロックとの連携のうえ、迅速な情報収集及び被災地への支援活動を行っており、実際の活動のもと左記システムの構築がなされています。また被災地地区・ブロック・LOMからの情報提供により、被災者のニーズあった物的支援もできており、JCの利点を活かした活動が実施できていると考察いたします。</p>
	<p>災害時、JCの担いのビジョン確立</p> <p>東日本大震災においては災害復興支援を最優先事項とし、予定されていた事業を凍結したうえで迅速な対応を行っており、本年度のブロックや地区、団体の垣根を越えた活動が、今後のJCにおける左記ビジョンの確立に重要な要素になるものと考察いたします。</p>
	<p>一般市民への知識や情報の啓発運動</p> <p>九州地区大会にて地域防災フォーラムを開催し、一般市民への防災に関する意識の啓発に寄与できたと推測されます。今後も災害を風化させないためにも、各ブロックや本会と連携して情報発信を行い続けることが重要だと考えられます。</p>
2012年度以降への提言	<p>東日本大震災の発生により本事業の活動内容については、今後も大幅な変更が必要となります。災害復興支援を最優先事項とし、災害を風化させないためにも、支援事業については中長期的な継続が望まれます。2012年度以降についても支援事業を実施しつつ、前年度の活動について精査を行い、本会・ブロックとの連携をさらに強化し、防災システムを構築し続けることを提言します。</p>

(2)自立した人材力 ナショナル・アイデンティティ確立プラン

自立した人材力確立グループ ナショナル・アイデンティティ確立委員会		
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬(国境離島)フォーラムの開催 ・本会「主権国家確立委員会」との連携 ・協働運動・連携推進についてのブロック協議会支援 	
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> ・国境離島フォーラムを開催(福岡市) ・九州地区大会(大分市)にてナショナル・アイデンティティ確立フォーラムを開催 	
アクションプラン2010に基づく事業の検証 (国境離島を保全できる九州人の育成)	九州人の育成 国境離島を保全できる	国内において尖閣諸島や竹島に関する諸問題がクローズアップされる中、この九州において対馬に関する諸問題についての事業を実施することは、真の九州人を育成するうえで重要な要素であると思われます。このような国家間の問題を民間レベルで取り上げたことにより、市民やメンバーにおけるビジョンの共有がなされ、将来の平和的解決に寄与できる九州人の育成に貢献できたと考察いたします。
	国境離島問題に関する住民意識の醸成	このような国境離島問題に関する意識は、当該地域の住民においては高い関心を持っているものと推測されます。本年度に関してはフォーラムを福岡市で開催することによって、対馬における国境離島問題を九州全域の問題として提起することによって、九州全体の住民意識の醸成に寄与できたものと考察いたします。
2012年度以降への提言	<p>本年度は該当地域である対馬ではなく、福岡市でフォーラムを開催できたことは九州構想の推進のうえでは非常に重要なことだと思われます。次年度以降はこの対馬問題を九州全体・日本全体の問題として、さらに広げていくことが重要だと思われます。本会やブロックとの連携を強化しながら、定期的に継続すること提言いたします。</p>	

(2)自立した人材力 九州JAYCEEスピリッツ醸成プラン

自立した人材力確立委員会 九州JAYCEEスピリッツ醸成委員会	
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「九州グローバルトレーニングスクール」の開催 ・「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」の推進
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に基づく人材育成事業を開催(九州グローバルトレーニングスクール) ・国連と連携したマラリア撲滅運動募金自販機を設置(JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州) ・九州地区大会(大分市)にて、九州 JAYCEE スピリッツ醸成フォーラムを開催
(アジアの一員としての国際感覚を備える人材の育成) アクションプラン2010に基づく事業の検証	豊かな国際感覚と力強い精神力を併せもった九州人の育成
	実施プログラムの発信による意識醸成
	<p>「九州 GTS」を通して、激化する地域間競争の中においても九州が自立した地域として生き抜くために求められる強い精神力を兼ね備えた人材の育成に取り組みました。</p> <p>また、九州の地理的ポテンシャルを踏まえアジアとの連携強化を意識し、多様な価値観を認識したうえでアジアとの共生を考えうる人材の育成に取り組みました。これらは、これからの九州の発展に不可欠な強い精神と国際感覚を併せ持った人材の育成に寄与できております。</p>
2012年度以降への提言	<p>九州における東アジアを中心としたグローバル化は、今後いっそう進んでいくものと考えられます。本年度の「九州グローバルトレーニングスクール」のような国際化に基づく人材育成事業を定期的実施することが、長期的な観点における人材育成には欠かせない要素であるため、定期的継続していくことを提言します。</p>

4. 九州地区7ブロック協議会の取り組みについて

九州地区協議会が推進する「九州構想」を実現するには、地区と九州地区7ブロック協議会の連携とビジョンの共有が必要不可欠な要素となってきます。そのような中、「九州構想アクションプラン2010」においては、各ブロック協議会の意見を総合調整しながら、九州地区及び7ブロック協議会が協働で行う運動(案)が提示されています。

九州地区及び7ブロック協議会が協働で行なう運動(案)

- ・ 九州ツーリズム確立運動(JCネットワーク)
- ・ 九州ブランド確立運動(地域経済活性化)
- ・ 九州JAYCEEスピリッツ醸成運動(人材育成)
- ・ 九州環境モデル構築運動
- ・ 九州地域防災確立運動

地区協議会の目的は日本JC本会の定款で定める目的(日本各地に所在する青年会議所を総合調整してその意見を代表し、全国規模の運動を展開して、日本国民の利益の増進を図るとともに、国際青年会所と協調して世界の繁栄と平和に寄与すること)達成の為、当該地区内ブロック協議会の意見を総合調整し、青年会議所運動の進展に寄与することです。

本年度の九州構想戦略会議においては、7ブロック協議会に対して協働運動の推進は正式には行なっておりませんが、各ブロックとも「九州構想」に関わる事業を実施していただき、次年度以降の地区協議会とブロックとの協働運動の推進や意見の総合調整を円滑に行なうために、本年度の九州地区7ブロック協議会における「九州構想」に関わる事業について報告させていただきます。

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 福岡ブロック協議会		
地区協議会と連携して行った事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災発生直後に、日本 JC・九州地区協議会と連携のうえ物的支援を実施 ・ 九州地域防災確立委員会や LOM と連携のうえ、宮城県亘理町への人的支援活動を実施 ・ アカデミーにて国境離島である対馬での全体事業実施や鹿屋航空基地資料館訪問によるナショナル・アイデンティティに関する事業を実施 ・ マラリア撲滅のための「募金型支援自動販売機」を設置 ・ 九州地区大会での「地域活性九州たから市」にブロックより出店 ・ 「福岡県ミリオネア構想」の発信 ・ 福岡ブロック会員大会において「地元飯バトル」と銘打ち21会員会議所地元の有名飲食店を集めて発信。(たから市の飲食店限定福岡版) 	
「九州構想」に関わる事業及び活動の検証	「九州構想」に関わる具体的事業について	<p>福岡の未来ビジョン策定会議にて「九州構想」に関わる「福岡県ミリオネア構想」を発信しております。またアカデミーの事業においても国境離島である対馬（長崎県）での全体事業の実施や自衛隊の基地訪問による国体保全に関する意識醸成などの事業が行われております。県内のみならず日本全体や九州という枠組みで地域を捉えた活動が実施されており、メンバーや LOM の同構想へのビジョン共有に寄与できております。</p>
	九州地区協議会との連携について	<p>東日本大震災への災害支援活動、マラリア撲滅のための「募金型支援自動販売機」の設置など、多岐にわたって地区協議会の連携が行われております。特に震災直後の物的支援に関しては、地区や LOM と連携し九州各地から集まる支援の中継地として重要な役割を果たしており、九州地区協議会や県内各 LOM との連携が堅実に遂行されています。</p>
2012年度以降への提言	<p>福岡ブロック協議会は、メンバー数において九州地区の30%程度を占めており、同ブロックが率先して地区協議会とのビジョンの共有・連携を推進することにより、「九州構想」の推進が円滑に行われるものと推測します。本年度においてはメンバー育成の原点であるアカデミーにおいて対馬問題を取り上げるなど、日本・九州全体を視野にいたった広い枠組みでの事業が実施されております。次年度以降についてもこのような事業を継続することにより「九州構想」を率先して推進することを提言いたします。</p>	

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 佐賀ブロック協議会		
「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック会員大会にて「佐賀未来ビジョン2011」を発信 ・ ブロック会員大会にて「佐賀ツーリズム」を発信 ・ 地域連携災害訓練事業にて防災プログラムを実践 ・ 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」をブロック事業としても推進 ・ 「自立した人材力」育成の為に自立した地域を先導するリーダーを育成出来るアカデミー事業を開催 ・ 東日本大震災発生直後に、日本 JC・九州地区協議会・県内各LOMと連携のうえ物的支援を実施及び役員有志にて宮城県亘理町にて人的支援を実施 	
「九州構想」に関わる事業及び活動の検証	「九州構想」に関わる具体的な事業について	<p>「佐賀ブロック協議会運動宣言2011」にて、日本JCとの連携強化・LOMへの支援強化・自立した九州の確立を詠っており、ブロック全体で「九州構想」を強く推進しております。またブロック大会においても「佐賀未来ビジョン2011」や「佐賀ツーリズム策定」など「九州構想」に基づく広域的な視野に立った地域振興の提案を行っており、県内7LOMやメンバーに対して、同構想へのビジョンの共有が確実に推進できております。</p>
	九州地区協議会との連携について	<p>日本JCや地区協議会と連携して行った「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においてはLOM重点依頼事項として、各LOMと連携のうえ募金型自販機の設置をいち早く推進しております。またブロック会員大会においても「住民の地域社会への参画意識の醸成」による地域活性化を目的としており「九州構想」に基づく運営が推進されています。</p>
2012年度以降への提言	<p>「九州構想」に基づいて広域的な視野に立ち、九州をひとつの大きな枠組みとして捉える発想がまずは重要であります。そして、自立した九州の実現に向けて、九州における佐賀という地域を既存の枠組みに左右されない柔軟な発想を持ちつつ、新たなる可能性とその役割を明確にしなが、来るべき地域主権社会に向けてメンバーや地域住民に対して「国が何をしてくれるか」ではなく「国や九州または佐賀に何が出来るのか」という従来の依存体質からの脱却に向けての意識の醸成を行っていく必要があると思います。</p>	

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 長崎ブロック協議会					
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災発生直後に、日本 JC・九州地区協議会と連携のうえ物的支援を実施 長崎ブロック災害ネットワーク緊急会議を開催し、各 LOM と連携のうえ災害支援を実施 災害セミナー「今、私たちにできること。～災害と向き合い共に助け合おう～」を開催 JCI Nothing But Nets キャンペーン(マラリア撲滅運動)の推進 九州地区大会での「地域活性九州たから市」にブロックより出店 				
<p>「九州構想」に関わる事業及び活動の検証</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 904 493 1281"> <p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p> </td> <td data-bbox="493 904 1375 1281"> <p>東日本大震災への対応は日本・地区・LOM と連携のうえ、JC の利点を活かした広域的な活動がなされております。また「長崎ブロック災害ネットワーク緊急会議」を開催し、ブロックとしての災害に関する情報や支援体制が各 LOM との間で構築されており、「九州構想」の掲げる連携・ビジョンの共有が確実に遂行されております。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1281 493 1641"> <p>九州地区協議会との連携について</p> </td> <td data-bbox="493 1281 1375 1641"> <p>JCI Nothing But Nets キャンペーン(マラリア撲滅運動)の推進においては全 LOM への公式訪問・趣旨説明及び対外的な発信を行い、また募金型自動販売機も県内に多数設置できており、日本本会・地区委員会との連携が積極的に実施されております。</p> </td> </tr> </table>	<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>東日本大震災への対応は日本・地区・LOM と連携のうえ、JC の利点を活かした広域的な活動がなされております。また「長崎ブロック災害ネットワーク緊急会議」を開催し、ブロックとしての災害に関する情報や支援体制が各 LOM との間で構築されており、「九州構想」の掲げる連携・ビジョンの共有が確実に遂行されております。</p>	<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>JCI Nothing But Nets キャンペーン(マラリア撲滅運動)の推進においては全 LOM への公式訪問・趣旨説明及び対外的な発信を行い、また募金型自動販売機も県内に多数設置できており、日本本会・地区委員会との連携が積極的に実施されております。</p>
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>東日本大震災への対応は日本・地区・LOM と連携のうえ、JC の利点を活かした広域的な活動がなされております。また「長崎ブロック災害ネットワーク緊急会議」を開催し、ブロックとしての災害に関する情報や支援体制が各 LOM との間で構築されており、「九州構想」の掲げる連携・ビジョンの共有が確実に遂行されております。</p>				
<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>JCI Nothing But Nets キャンペーン(マラリア撲滅運動)の推進においては全 LOM への公式訪問・趣旨説明及び対外的な発信を行い、また募金型自動販売機も県内に多数設置できており、日本本会・地区委員会との連携が積極的に実施されております。</p>				
<p>2012年度以降への提言</p>	<p>「長崎ブロック災害ネットワーク緊急会議」の開催による災害時のブロック内のビジョンの共有が行われており、次年度以降の「九州構想」の推進に繋がる事業が実施できております。当ブロックに関しては、地区が推進する「対馬問題」の当該地域でもあるため、次年度以降については「国境離島問題」についても地区委員会と連携のうえ、積極的に事業を実施することを提言いたします。</p>				

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 熊本ブロック協議会					
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック大会記念事業にて「阿蘇ジオパーク」に関するフォーラムを開催 ・ 「JCI Nothing But Nets キャンペーン」をブロック事業としても推進 ・ 日本 JC・地区協議会・県内13LOM と連携し東日本大震災への災害支援を実施 				
<p>「九州構想」に関わる事業及び活動の検証</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 902 493 1279"> <p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p> </td> <td data-bbox="493 902 1375 1279"> <p>ブロック大会記念事業では「阿蘇ジオパークフォーラム」にて、ジオパークを起点とした地域振興（観光・教育）や世界ジオパーク認定推進活動の啓発推進が発信されております。九州の地理的中心である熊本阿蘇における世界ジオパーク推進による地域振興の活動は、九州の他のジオパーク（霧島、島原、天草）へも好影響を与えると推察され、今後の九州ツーリズムの確立に欠かせない要素となります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1279 493 1639"> <p>九州地区協議会との連携について</p> </td> <td data-bbox="493 1279 1375 1639"> <p>日本 JC・九州地区協議会と連携して行なった「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、LOMへの積極的な呼びかけや、ブロック独自の啓発活動により、メンバーはもとより市民に対しても国際貢献しうる人材の育成に貢献できたと認識しております。また東日本大震災への災害支援活動においても、ブロック協議会が積極的に県内13LOM とりまとめ、広域的な視野にたった災害支援活動が円滑に行われております。</p> </td> </tr> </table>	<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会記念事業では「阿蘇ジオパークフォーラム」にて、ジオパークを起点とした地域振興（観光・教育）や世界ジオパーク認定推進活動の啓発推進が発信されております。九州の地理的中心である熊本阿蘇における世界ジオパーク推進による地域振興の活動は、九州の他のジオパーク（霧島、島原、天草）へも好影響を与えると推察され、今後の九州ツーリズムの確立に欠かせない要素となります。</p>	<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>日本 JC・九州地区協議会と連携して行なった「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、LOMへの積極的な呼びかけや、ブロック独自の啓発活動により、メンバーはもとより市民に対しても国際貢献しうる人材の育成に貢献できたと認識しております。また東日本大震災への災害支援活動においても、ブロック協議会が積極的に県内13LOM とりまとめ、広域的な視野にたった災害支援活動が円滑に行われております。</p>
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会記念事業では「阿蘇ジオパークフォーラム」にて、ジオパークを起点とした地域振興（観光・教育）や世界ジオパーク認定推進活動の啓発推進が発信されております。九州の地理的中心である熊本阿蘇における世界ジオパーク推進による地域振興の活動は、九州の他のジオパーク（霧島、島原、天草）へも好影響を与えると推察され、今後の九州ツーリズムの確立に欠かせない要素となります。</p>				
<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>日本 JC・九州地区協議会と連携して行なった「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、LOMへの積極的な呼びかけや、ブロック独自の啓発活動により、メンバーはもとより市民に対しても国際貢献しうる人材の育成に貢献できたと認識しております。また東日本大震災への災害支援活動においても、ブロック協議会が積極的に県内13LOM とりまとめ、広域的な視野にたった災害支援活動が円滑に行われております。</p>				
<p>2012年度以降への提言</p>	<p>「阿蘇ジオパークフォーラム」ではジオパークによる地域振興が推進されていますが、このような「ジオパーク」を起点とした事業は宮崎ブロック協議会や霧島JCも行っております。また「日本ジオパーク」については九州内に島原（長崎）・天草（熊本）・阿蘇（熊本）・霧島（宮崎・鹿児島）があり、今後は九州地区協議会や各ブロックと連携して協働運動を実施することで、九州ツーリズムの確立の重要な要素となりえます。</p>				

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 大分ブロック協議会					
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック大会にて領土・領海意識醸成プログラムを実施 ・ 日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携うえ、東日本大震災への災害支援活動を実施 				
<p>「九州構想」に関わる事業及び活動の検証</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 902 494 1281"> <p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p> </td> <td data-bbox="494 902 1375 1281"> <p>ブロック大会にて日本JC主権国家確立委員会と連携し、領土・領海意識醸成プログラムを実施しております。この運動は九州地区協議会が推進する国境離島問題(対馬問題)に繋がる事業であり「九州構想」が掲げる国体保全に関するメンバーへの意識醸成に寄与できています。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1281 494 1639"> <p>九州地区協議会との連携について</p> </td> <td data-bbox="494 1281 1375 1639"> <p>大分ブロック協議会の事業ではありませんが、大分JC主管の九州地区大会では、県内全LOMが副主管として大会運営に関わり、地区大会の開催にブロック全体で尽力いただいております。また東日本大震災への災害支援活動についても、日本JC・地区・LOMと連携のうえで支援を行っております。</p> </td> </tr> </table>	<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会にて日本JC主権国家確立委員会と連携し、領土・領海意識醸成プログラムを実施しております。この運動は九州地区協議会が推進する国境離島問題(対馬問題)に繋がる事業であり「九州構想」が掲げる国体保全に関するメンバーへの意識醸成に寄与できています。</p>	<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>大分ブロック協議会の事業ではありませんが、大分JC主管の九州地区大会では、県内全LOMが副主管として大会運営に関わり、地区大会の開催にブロック全体で尽力いただいております。また東日本大震災への災害支援活動についても、日本JC・地区・LOMと連携のうえで支援を行っております。</p>
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会にて日本JC主権国家確立委員会と連携し、領土・領海意識醸成プログラムを実施しております。この運動は九州地区協議会が推進する国境離島問題(対馬問題)に繋がる事業であり「九州構想」が掲げる国体保全に関するメンバーへの意識醸成に寄与できています。</p>				
<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>大分ブロック協議会の事業ではありませんが、大分JC主管の九州地区大会では、県内全LOMが副主管として大会運営に関わり、地区大会の開催にブロック全体で尽力いただいております。また東日本大震災への災害支援活動についても、日本JC・地区・LOMと連携のうえで支援を行っております。</p>				
<p>2012年度以降への提言</p>	<p>本年度は「領土・領海意識醸成プログラム」を日本JCと連携して実施しており、今後は九州における同問題と繋がる「対馬問題」等の事業の実施を提言いたします。また同ブロックは全国有数の温泉地を有しており、今後ブロック協議会において広域的な視野にたったツーリズムを推進していただくことにより、「九州構想」の掲げる九州ツーリズムの確立への重要な要素となり得ます。</p>				

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 宮崎ブロック協議会					
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本JC・地区協議会と連携うえ、東日本大震災への災害支援活動を実施 ・ 日本JC・地区協議会と連携うえ、新燃岳噴火に伴う災害への支援活動を実施 ・ 地域活性化フォーラムにて「霧島ジオパーク」に関するプレゼンテーションを実施 				
<p>「九州構想」に関わる事業及び活動の検証</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 902 493 1281"> <p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p> </td> <td data-bbox="493 902 1375 1281"> <p>地域活性化フォーラムにて「霧島ジオパーク」を事例としたプレゼンテーションが実施されております。宮崎・鹿児島両県の5市2町をまたぐ、県の枠を超えた広域的な地質遺産を、教育や観光などの地域振興に活かすための発信がなされており、今後の九州のツーリズムや人材育成の確立に繋がる事業がなされています。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1281 493 1639"> <p>九州地区協議会との連携について</p> </td> <td data-bbox="493 1281 1375 1639"> <p>今年1月に発生した宮崎・鹿児島両県をまたぐ新燃岳の噴火の際には、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、除灰の作業などの災害支援を行っております。また東日本大震災への支援活動についても、当ブロック協議会の広域ネットワーク推進委員会が中心となり、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、広域的な視野にたった支援活動が実施できています。</p> </td> </tr> </table>	<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>地域活性化フォーラムにて「霧島ジオパーク」を事例としたプレゼンテーションが実施されております。宮崎・鹿児島両県の5市2町をまたぐ、県の枠を超えた広域的な地質遺産を、教育や観光などの地域振興に活かすための発信がなされており、今後の九州のツーリズムや人材育成の確立に繋がる事業がなされています。</p>	<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>今年1月に発生した宮崎・鹿児島両県をまたぐ新燃岳の噴火の際には、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、除灰の作業などの災害支援を行っております。また東日本大震災への支援活動についても、当ブロック協議会の広域ネットワーク推進委員会が中心となり、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、広域的な視野にたった支援活動が実施できています。</p>
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>地域活性化フォーラムにて「霧島ジオパーク」を事例としたプレゼンテーションが実施されております。宮崎・鹿児島両県の5市2町をまたぐ、県の枠を超えた広域的な地質遺産を、教育や観光などの地域振興に活かすための発信がなされており、今後の九州のツーリズムや人材育成の確立に繋がる事業がなされています。</p>				
<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>今年1月に発生した宮崎・鹿児島両県をまたぐ新燃岳の噴火の際には、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、除灰の作業などの災害支援を行っております。また東日本大震災への支援活動についても、当ブロック協議会の広域ネットワーク推進委員会が中心となり、日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携のうえ、広域的な視野にたった支援活動が実施できています。</p>				
<p>2012年度以降への提言</p>	<p>本年度の宮崎ブロック協議会については1月の新燃岳噴火と3月の東日本大震災の発生により、被災地でもありながら支援活動も行うなど、自然災害の対応に追われる年度となりました。そのような事情もあり「九州構想」については積極的な発信が難しい状況ではありましたが、次年度は九州地区大会が当ブロックの宮崎JC主管で開催されるため、本年度の広域的な災害復興の経験や「霧島ジオパーク」に関する地域振興策などを「九州構想」に基づき発信していくことを提言いたします。</p>				

「九州構想」に関わる事業及び連携して行った事業についての検証報告

公益社団法人日本青年会議所 鹿児島ブロック協議会					
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業及び地区協議会と連携して行った事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック大会にてメインフォーラム「地域の自立にむけて」を開催 ・ ブロック大会にてフォーラム「地域における災害支援ネットワークの活用術」を開催 ・ 「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」にて、募金自販機を設置 ・ 日本JC・地区協議会・県内各LOMと連携うえ、東日本大震災への災害支援活動を実施 				
<p>「九州構想」に関わる事業及び活動の検証</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 902 493 1279"> <p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p> </td> <td data-bbox="493 902 1375 1279"> <p>ブロック大会メインフォーラム「地域の自立にむけて」では、自立した個人と地域の集合体による鹿児島や自立した九州の創造を発信しており、県内各LOM・メンバーに対して「九州構想」の意識の醸成がなされております。また「地域における災害支援ネットワークの活用術」では、県内全域を視野にいれ県内全LOMの災害時の連携・ビジョンの共有が発信されております。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1279 493 1639"> <p>九州地区協議会との連携について</p> </td> <td data-bbox="493 1279 1375 1639"> <p>昨年度の奄美大島豪雨災害の経験もあり、新燃岳噴火・東日本震災支援に関しては地区の九州地域防災確立委員会との積極的な情報共有・連携により広域的な地域防災の構築にも貢献できております。また「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、募金型自動販売機の1号機を設置するなど、地区との連携が積極的に行われております。</p> </td> </tr> </table>	<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会メインフォーラム「地域の自立にむけて」では、自立した個人と地域の集合体による鹿児島や自立した九州の創造を発信しており、県内各LOM・メンバーに対して「九州構想」の意識の醸成がなされております。また「地域における災害支援ネットワークの活用術」では、県内全域を視野にいれ県内全LOMの災害時の連携・ビジョンの共有が発信されております。</p>	<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>昨年度の奄美大島豪雨災害の経験もあり、新燃岳噴火・東日本震災支援に関しては地区の九州地域防災確立委員会との積極的な情報共有・連携により広域的な地域防災の構築にも貢献できております。また「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、募金型自動販売機の1号機を設置するなど、地区との連携が積極的に行われております。</p>
<p>「九州構想」に関わる具体的な事業について</p>	<p>ブロック大会メインフォーラム「地域の自立にむけて」では、自立した個人と地域の集合体による鹿児島や自立した九州の創造を発信しており、県内各LOM・メンバーに対して「九州構想」の意識の醸成がなされております。また「地域における災害支援ネットワークの活用術」では、県内全域を視野にいれ県内全LOMの災害時の連携・ビジョンの共有が発信されております。</p>				
<p>九州地区協議会との連携について</p>	<p>昨年度の奄美大島豪雨災害の経験もあり、新燃岳噴火・東日本震災支援に関しては地区の九州地域防災確立委員会との積極的な情報共有・連携により広域的な地域防災の構築にも貢献できております。また「JCI Nothing But Nets キャンペーン in 九州」においては、募金型自動販売機の1号機を設置するなど、地区との連携が積極的に行われております。</p>				
<p>2012年度以降への提言</p>	<p>昨年度から本年度にかけ、奄美大島豪雨災害や新燃岳噴火、東日本大震災と自然災害が続き、鹿児島ブロックにおいては被災地でもありながらも支援活動も行うという、非常に厳しい状況での運営であったと考えられます。そのような状況にありながら、ブロック大会ではしっかりと「九州構想」に基づく「地域の自立」を発信でき、メンバーや県民に対しての意識の醸成に寄与できております。次年度以降も日本JC・地区協議会・LOMとの連携やビジョンの共有を強化しながら、同事業を継続していくことを提言いたします。</p>				

5. アクションプラン2010実行5ヵ年計画

－2011年度総括－

九州地区協議会にて、2006年に制定された「九州構想」という理念は今年で6年目を向かえており、また昨年には「九州構想アクションプラン2010」が策定され、本年度はその実行5ヵ年計画の1年目にあたります。九州構想が掲げる「自立した九州」を確立するためには、各ブロックとの連携強化と中長期的なビジョンの共有が必要になってまいります。そのような観点から、九州構想を推進する当会議体では、九州地区協議会の事業に関して「九州構想アクションプラン2010」に基づき本年度の検証を行い、目標にむけた活動を継続するために、本報告書にて次年度以降への提言をさせていただきました。

本年度の九州地区協議会の事業においては、3月11日に発生した東日本大震災への対応により、事業内容を大幅に変更せざるえない委員会があったにもかかわらず、柔軟な対応により「自立した九州」に向けて一歩前進できたと考えております。またブロックとの連携という面でも、災害支援活動などを通じて大きく強化されたうえ、ブロック大会においても「九州構想」が発信できており、今後の活動に向けたビジョンの共有を推進できたと認識しております。地区大会においてもメンバーに対して「九州構想」のコンセプトである「自立した経済力」「自立した安心力」「自立した人材力」を発信し共有できており、メンバーの「九州構想」に対する意識醸成に寄与できており、住民意識に関しても地区大会にてフォーラムなどによる「九州構想」を切り口とした発信により、市民に対して九州はひとつという意識の醸成が推進されたと考えます。本年度に関しては「実行5ヵ年計画」の1年目よりアクションプランの改定や事業の変更などを余儀なくされましたが、九州の将来像やその方向性を地区協議会・ブロック協議会、そして各地会員会議所のメンバーと共有できたために「自立した九州」にむけた本質から外れない計画遂行が可能であったと認識しております。

上記のとおり「九州構想」の本質であるビジョンの共有やブロックとの連携においては、着実に強化されておりますが、「実行5ヵ年計画」の各項目については、2010年度の地区大会が災害により中止になり「アクションプラン2010」の発信が遅れたことに加え、本年度の各委員会への早期の周知徹底も不足したために、1年目にもかかわらず実行できなかった項目もあります。今後はこのような状況にならないために、本年度以上に各委員会と連携を強化し一体となった運営で「九州構想」を発信し継続していくことが必要になります。

九州地区7ブロック協議会の実施事業においては、各ブロックとも広域的な視野にたった事業が行なわれているうえ、本年度については災害支援活動を通じて「九州がひとつ」になって活動できた年度だと考えております。今後もブロックでの事業において可能なものについては、是非「九州構想」という理念を具体的に事業に組み込んでいただき、九州全体の発展により貢献していただければと考えております。また本年度の熊本ブロックや宮崎ブロックの「ジオパーク」に関わる事業のように、同一項目に関する事業については、地区協議会が各ブロックの意向を積極的に汲み取ることによって、九州全体の運動として拡大していくことも、「九州構想」の実現には必要不可欠だと考えます。

時勢の変化や年度の進行による進捗を踏まえ「実行5ヵ年計画」の達成目標に向かつての変更が必要になってくるケースあると思いますが、九州の将来に対するビジョンを共有し「九州構想」の目指す本質部分を次年度以降へ引き継ぎ、「自立した地域(九州)の創造」を目指していくべきだと考え、総括いたします。